

「アナログとデジタルの感覚の違い」

梅村 この状況になるまでうちのお店には、自分が若い頃子どもを生んでいたらこれくらいの歳になっていたんだらうなって子たちがよく遊びに来てくれていたんですよ。最近も大学生の子が来はじめています。でもクラブカルチャーは叩かれやすくて。

金野 世代が回ってきてるんですね。音楽好きの親がいて、DJ やっている人とかよくいるもんね。やっぱりそういう子達って結構すごいイメージがあります。頑張ってバイトして、レコードを買い漁ってたりとか。

梅村 でも、今の若い子達はレコードじゃなくて、デジタルで音楽を聴いているんだよね。パソコンやタブレット、スマホでも音源をダウンロードしてDJ ができるので。今はレコード自体が高くなってきてるんですよ。前だったら12インチの新譜のレコードは1,000円しない時もあったけど、今は2,000円くらいしますもんね。アルバムも2枚組とかだと、6,000~7,000円とか。若い子たちはみんなお金がないので、レコードには興味あるんだけど買い続けられないしCDさえも買えない。だけどDJはやってみたいって話をよく聞きますね。

三田 興味はあるってことなんですね。

梅村 興味とか関心はすごいですよ。今はSpotifyとかAppleMusicを使って、買わなくても音楽がチェックできるじゃないですか。そういうサブスクを使ってDJができるアプリもあつたりしますよね。みんなほとんどレコードもCDも買わない。でもデータはデータの音でアナログではないんですよ。レコードとかのあつたかさとは違いますね。

三田 そうやってスマホとかの機械にダウンロードするのって、いつかその機械を買い替えた時に、今まで集めた音楽が消耗品として捨てられているんじゃないかってイメージがあるんですよ。それが悲しいなと思います。やっぱりレコードとかCDなら簡単に捨てたりしないですよ。

金野 昔はレコードの「ジャケ買い」とかもあつたじゃないですか。そういう楽しみ方も含めて僕はレコードを集めてましたね。きっと今はそういうのを求めない世代なのかもしれないですね。

加藤 たしかにジャケットも重要な音楽の要素でした。

金野 ジャケ買いしておいて、あとから「どうしてこの曲を買っちゃつたんだらう」みたいな(笑)。でもいいジャケットはついつい見返したりしますよね。それだけで酒飲めちゃうみたいな。

加藤 いやー、でもレコードって今そんなに高くなっているんですよ。びっくりしました。でも私は「カタチ」として持っていたいですね。

梅村 若い人にはレコードをかけたいという気持ちがあります。でもレコードはお金持ってないと買えないんですよ。だからよく若い子に相談されるんですよ。「DJをやりたいんですけど、どうしたらいいですか?」って。やっぱりみんなお金がレコードに追いつかないんでしょうね。

金野 それでも音楽を流したいって若い子たちがいっぱいいるんですよ。

梅村 いっぱいいます。音楽に対してストイックな子が多い気がしますね。みんなスマホで新しい曲をすごいチェックしてる。

金野 そういう所はデジタルの恩恵なんでしょうね。街を歩くとヘッドホンしている人とかも結構いますし。すごい音楽が身近になっているけどその分、今の人は質が軽くなってみたいなのもあるのかな?

梅村 掘り下げることは少ないかもしれないですね。例えばソウルミュージックとかヒップホップとか、そのジャンルが生まれた背景を知ろうとはしない、とか。新しいものを追い続けるのは、敏感で動きも早いけど、歴史を探るみたいなことは少ないのかもしれないですね。

宮本 レコードの話で言えば、今はデータで配信されていたりするからこそ、レコードは音楽を聴くためというよりむしろグッズみたいな扱いになっているのかもしれないですね。わざわざ作るものになっているから、高いのかなと思いました。掘り下げる話でいうと、今は雑誌やテレビに触れる機会が少なくなって、曲は知っているけどアーティストのことは全然知らないみたいなことも多いと思うので、背景を調べる気になかなかならないってことが起きているのかもしれないです。